

恵那市 熱中症対策についてのガイドライン

令和7年5月改正
恵那市教育委員会

★市内小中学校にあっては、本ガイドラインに示すように熱中症対策を行っていただくをお願いします

暑さ指数(WBGT)と学校の対応

暑さ指数(WBGT) 乾球温度(目安)	学校生活を安全に過ごすための指針 ※熱中症予防のための運動指針((公財)日本スポーツ協会)参照
WBGT 33℃以上 熱中症警戒アラート	【運動の中止・児童生徒の留め置き】 下校時に熱中症警戒アラートが発表されており、かつ各学校の運動場における暑さ指数が33℃以上の場合、児童生徒を学校に留め置き、暑さ指数が下がってから下校、もしくは引き渡しとする。
WBGT 31℃以上 乾球温度35℃以上 危険	【運動は原則中止】 体育などの運動は原則中止。 屋外や空調設備のない体育館での活動※1は、中止又は活動時間の短縮。 プールについては、「恵那市立小中学校の熱中症対策について」ならびに「プール学習時の熱中症対策」を参照
WBGT 28～31℃ 乾球温度31℃～35℃ 厳重警戒	【激しい運動は中止】 激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は中止。 健康チェックや水分(塩分)補給など健康管理を徹底。練習内容、場所、時間、服装などに配慮した上で活動。肥満や体力等個人の条件、体調を考慮し、運動を軽減、中止。
WBGT 25～28℃ 乾球温度28℃～31℃ 警戒	【積極的に休息】 積極的に休息をとる。激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休息をとるとともに、水分(塩分)を補給する。
WBGT 21～25℃ 乾球温度24℃～28℃ 注意	【積極的に水分補給】 熱中症の兆候に注意。運動の合間に積極的に水分補給。
WBGT 21℃未満 乾球温度24℃未満 ほぼ安全	【適宜水分補給】 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分補給を行う。

※1 遠足、町探検、理科の観察、農業体験、写生、集会、など

暑さ指数(WBGT)は、温度や湿度などの複数の環境要素を合わせて測定しているため、場所や時間により、値が変動します。活動場所ごと、活動時間ごとに測定することが大切です。

熱中症特別警戒 及び警戒アラート の予測と対応

運動・野外活動は、WBGT31℃以上＝原則中止！
※地域や学校の実情に応じて各アラートの対処方法を調整

【放課後】 ①翌日の気象情報の入手(管理職)	高温予想！ ②全職員に周知(管理職)	③翌日の対応を検討 ・教室授業・体育 ・行事・部活動 ・登下校等 ★全職員で共通理解	【翌日朝】 ④気象情報の入手(管理職)	WBGT上昇アラート発表 ⑤全職員に周知(管理職)	⑥対応
必要に応じて保護者連絡					

【対応上の留意点】

- ・急に暑くなった日や諸活動の初日などは特に注意
- ・異常を感じたらすぐに休ませて体を冷やし、水分・塩分補給
- ・救急車要請の対象(「呼びかけの返答に違和感」「意識がない」「自力で水分補給できない」)
- ・暑さ負傷＋水分不足＝隠れ熱中症(疲れや乳酸の蓄積による)

【見届けのポイント】

- ①足の動きや運び
- ②目の焦点
- ③簡単な問いかけ(質問)への反応

基本対応

各アラートが発表されていなくてもWBGTを把握し、対応を決定
※朝の測定以降は毎日のルーティン

【朝】 WBGTの測定場所(校庭)担当(●●)記録を取る	【朝の会前】 指針に基づき授業等の対応を決定(授業、体育・部活動、行事)→内容・時間変更、延期・中止 ★全職員で共通理解	【授業・活動前】 WBGTの測定場所(活動場所)担当(担任・教科担・顧問)記録を取る	【活動中】 指針に基づき授業等の内容を柔軟に変更 担当(左同)	【下校時】 下校時の対応を児童生徒に指導 担当(左同)
必要に応じて保護者連絡		活動前・中のWBGT測定とその変化に注意		

職員研修

熱中症対策要旨・本ガイドライン・プール対応・熱中症対応フロー等の確認
※日本スポーツ振興センター作成の動画・テキスト「熱中症を予防しよう～知って防ごう熱中症～」等も活用ください。★暑さが本格的になる前、5月頃に研修するのが望ましい。

対応にあたり教訓とする事例

教訓①:熱中症を引き起こす3要因(環境・からだ・行動)
【事例①】アメリカンフットボール部での部活動中に起きた事故
8月、高校3年男子がアメリカンフットボール部の部活動で9:30から練習試合にフル出場(行動)11:20、第4クォーター終了直前にベンチで倒れ、意識なし。2日後に死亡した。気温32℃、湿度61%(環境)であり、被害者本人は身長170cm、体重113kg、肥満度77%(からだ)であった。
教訓②:それほど気温が高なくても湿度が高い日は注意！
【事例②】宿泊学習で起きた事故
7月、中学2年生の男子が宿泊学習で登山中(行動)に熱中症になり、死亡した。当日は気温27.2℃、湿度70%(環境)であった。(事故現場近隣の気象庁データによる)
教訓③:激しい運動でなくても、暑さ指数が高い日、特に小学校低学年で注意！
【事例③】校外学習で起きた事故
7月、小学校1年生(からだ)の男子が学校から約1km離れた公園での校外学習後に教室で様子が急変し、意識不明になり、救急搬送される事故が発生した。当該生徒は搬送先の病院において死亡した。＊午前10時の状況:気温32.9℃ 暑さ指数(WBGT)32(環境)で「危険」